



受賞の喜びを福島市長に報告する須藤さん（中央）

## 須藤さん「秋季善行表彰」を受賞 太鼓指導で地域の子どもを健全育成

長年にわたり社会貢献活動に尽力された方を表彰する秋季善行表彰（社）日本善行会主催）を須藤誠造さん（柏鷲坂）がこのほど受賞し、福島市長に喜びの報告をしました。

須藤さんは柏地区で青少年の太鼓指導に力を入れ、太鼓を通じて非行防止や健全育成を図るとともに日本文化を子どもたちに継承させ、文化を大切にする心を育ててもらおうと約10年間にわたり指導を続けています。須藤さんの指導を受けた小・中学生たちは、老人ホームやイベント等での演奏で人に感謝される喜びと生きているという価値観に芽生えた子どもたちも多く、福島市長は「これからも指導を続け、健全な子どもたちを育ててください」と須藤さんを激励しました。



自分たちの作品展開催を喜んでいる尾崎さん夫妻

## 地元で油絵展を開催 2人で描き続けた30年の集大成

木造増田在住の尾崎昭一さん・千枝子さん夫妻がこのほど、松の館ギャラリーで油絵「巴里に夢を求め続けた夫婦展」を開催し、市民らの目を楽しませてくれました。

尾崎さん夫妻は30年前から油彩を始め、団体等には所属せずにお互い自由な発想で絵を描き、ピカソ、ゴッホ、モネなどの画集を手本にしてそれぞれ独学で描いています。作品展のタイトルに「巴里」と付けたのは、2人にとってのパリはあこがれの地で、多くの巨匠たちに少しでも近づきたいという思いが込められているそうです。夫の昭一さんは「自分たちの絵が訪れた人たちにどう評価されるかわかりませんが、これまでの集大成を見てもらいたい」と話しており、2人は地元で初めての作品展開催を喜んでいました。



来場者の前で熱唱する出演者

## 年末チャリティー演楽会

市民の親睦交流と憩いの場を提供しようと車力歌謡クラブ「楽歌声の会」がこのほど、「09年末チャリティー演楽会 in しゃりき」を牛瀧公民館で行いました。

今回で7回目となる演楽会には市内外から約400人が訪れ、歌や舞踊を楽しみ、中でも歌を交えながらの寸劇は昨年に引き続き好評で、セリフが津軽弁でもあることから観衆は大笑いしながら鑑賞していました。演楽会は歳末たすけあい運動の一環として開催していることから、収益金の一部を社会福祉協議会へ寄付しました。



熱心にバドミントンの指導を受ける児童

## スポーツ教室で基礎を学ぶ

NPO法人つがる市体育協会（福島弘芳会長）が1月16日、稲垣体育館で「キッズスポーツ教室・大会」を開催しました。

同教室・大会には、市内小学生30人が参加。同協会は昨年12月に市内全小学生を対象に「スポーツに関するアンケート調査」を実施し、その結果、児童に人気のあったドッジボール、バドミントン、縄跳びの3種目を行いました。参加者は指導者からルールと基礎を学び、交流を楽しみながら汗を流していました。

リフトに乗って移動する参加者



## もっと上手に滑るぞ!

柏、森田地区の小学3年生以上を対象としたスキー・スノーボード教室が1月9日、ナクア白神スキーリゾートで開催されました。

教室は森田公民館事業の一環として行われ、初級、中級レベルの児童24人が参加。講師は森田スキークラブの指導員が担当し、4班に分かれて指導していました。参加者はリフトに乗って山に昇り、約1時間かけて斜面を滑り降り、ブルークボーゲンやシュテムターンなどの練習を繰り返しながら、白銀にシュプールを描いていました。



下の句の札を取り合う児童

## いらっしやいませー! 毎度ありがとうございます!

しげた保育園（工藤敦子園長）で1月21日、恒例の園内行事「お店やごっこ」が行われ、園児60人が買い物を楽しみました。

同園では子どもたちに言葉のやり取りを楽しみながら金銭感覚を養ってもらおうと毎年開催しています。遊戯室にはおかし屋、おもちゃ屋、やさい・さかな屋などの店がかまえられ、年長児が店主となって年中児たちに品物を販売。「いらっしやい、いらっしやい」の呼び声に園児たちはお菓子や模造紙で作った野菜、アニメ人気キャラクターのグッズ類など好みの品物を買い求め、買い物袋いっぱいになるまでショッピングを体験しました。



交通死亡事故ゼロを祈願し  
玉串を捧げる桜庭会長

## 今年一年の交通安全を祈願

今年一年の交通事故による死亡者ゼロを目指してつがる地区交通安全協会（桜庭修会長）が1月7日、平成22年の交通安全祈願祭を三新田神社で行いました。

祈願祭には交通安全母の会員や同協会関係者ら約30人が出席。祝詞奏上の後、桜庭会長、福島市長、柴田つがる警察署長らが玉串を捧げ、桜庭会長が「昨年の交通事故死亡者は県内で50人、つがる警察署管内では4人となっています。交通安全関係団体が一丸となって交通死亡事故ゼロを目指し、地域に浸透する活動をしていきましょう」とあいさつしました。

## 元気に「はいっ!」郷土に親しむかるた大会

稲垣子ども会育成連絡協議会（斉藤明会長）が主催する郷土かるた大会が1月10日、稲垣公民館で行われ、小学生30人が学年対抗で熱戦を繰り広げました。

大会は子どもたちに郷土の文化や風土などを継承しようとして行われ、札には「下繁田 伝統芸能の荒馬や 手綱握られ 暴れまわる」「川沿いの 一本タモを目印に 昔の人は 舟をこいだと」などが書かれています。児童たちは読み手が上の句を読み上げると耳を傾け、下の句の札を「はいっ」と大きな声を出して札を取っていました。



お目当ての品物を買い求める園児